

事例 12 積丹地域での民国連携による路網整備や土場利用

(北海道森林管理局 石狩森林管理署)



- 北海道 積丹郡 積丹町（しゃこたんちょう） 積丹国有林
- 左：共同利用する国有林の施業現場を民有林関係者に説明する様子
- 右：積丹地域森林整備推進協定共同施業団地（余別地区）について

北海道森林管理局石狩森林管理署では、積丹町からの要望をきっかけに、積丹町、国立研究開発法人森林研究整備機構森林整備センター札幌水源林整備事務所と森林共同施業団地を設定し、流域一体での民有林と国有林が連携した施業や協調出荷に取り組んでいます。

令和元年度までに民有林野と国有林野をつなぐ路網を整備（民有林 1,300m、国有林 2,000m）したことで、市場から距離があり搬出コスト面で不利であった町有林の搬出間伐が可能となりました。また、民有林野と国有林野から搬出された丸太を同じ場所に集約できる共同土場を整備し、協調出荷に向けた環境が整いました。

今後は、民有林関係者と協力して現地検討会等を開催しつつ、共同施業による事業コストの削減や協調出荷による収益力向上を目指した取組を推進していきます。



共同土場（町有地）の写真
白地は搬出路